

卒業生からのメッセージ

今年度最初の「卒業生からのメッセージ」を発行します！

今回メッセージを寄せてくださったのは、2011年に中津高校をご卒業された、田中 駿介さんです。

田中さんは名古屋大学大学院理学研究科をご卒業後、電子部品メーカーの生産技術者として勤務され、現在は製品外観検査用照明メーカーでライティングコンサルタントとして勤務されています。

紹介するのは英語科安江侑里子先生です。

【安江先生より】

田中さんは高校の友達です。特に社会人になってから、他の同級生も一緒に旅行に行ったり、バドミントンをしたりしていました。親しくしている田中さんが今回、原稿依頼を引き受けてくれて、私も読むのを楽しみにしていました。

<中津高で学んだこと>

・何にでも積極的に取り組んでみる

世の中、一見すると特に重要ではないように思えることが、実は今後の人生を左右する出来事であることがあります。何がどのような形で今後の人生に生きるか分からないことがあります。

私が高校時代に経験した中で、一番大きく人生の方向性を左右した出来事は、当時の先生方が企画してくださった、大学の先生による出前講座への参加で、これがきっかけとなり大学に合格できたといっても過言ではありません。

その講座は本来、一学年下の生徒向けに開講されたものでしたが、当時の担任教諭の計らいにより、我々の学年でも、希望者は参加させてもらえることとなったため、積極的に手を挙げ、下級生に交じって、名大理学部先生の講座を受講させていただきました。

その講座の中で気になった点があったので、思い切って質問をしたところ、『講義内では答えを出さないの、まずは自分で考えてみてください。』との回答をいただきました。そのため講座後、担任や物理の先生に質問しながら、自分なりに答えを考え、その回答を講師の先生にメールしました。

『的外れなことを言っていたらどうしよう』という不安はありましたが、勇気を持って送信した結果、あたたかなコメントをいただき、その後も何通かメールをやりとりさせてもらう、という出来事がありました。

月日は流れて、センター試験(今でいう大学入学共通テスト)が終わったタイミングで、自己推薦試験を受けるか否かという話になりました。センター試験でコケてしまったこともあり、受験しようか迷いましたが、当時、名大理学部の推薦試験は内申点、センター試験の点数、志望理由書のみで合否が決まるもので、受けたところでそれほど勉強時間に支障が出るわけでもないと考えた私は、ダメもとで受けてみることにしました。

その際、出前講座で同大同学部の先生の講義を受講したこと、その中で質問をして何度かやり取りをさせていただいたことを踏まえながら、その先生の研究室に入りたいことを志望理由書に書いたところ、名大理学部に合格することができました。

当時、出前講座を受講しようと手を挙げたときには、それがきっかけで大学に合格できると思いはしていませんでしたが、今思うと、間違いなくとても重要な出来事だったと確信できます。

興味がないようなことや、傍から見たら無駄・面倒だと思える物事であっても、自分の中で勝手に価値観を決めつけず、未知との遭遇を楽しむくらいの勢いで、何事にも積極的に取り組んでみてください。きっと人生のどこかで役に立つかと思います。

<やっておけばよかったこと>

・英語の学習

中津高に入ったおかげで、中学までは壊滅的だった英語が人並みレベルまでは改善されましたが、それでも苦手意識は克服できませんでした。

その状態で大学に入っても、前半の2年間はなんとかやっていたのですが、研究室に入ってから問題は露呈し始めました。自分の研究テーマを持つにあたり、先人たちが積み上げてきた先行研究や、最新の類似研究などをきちんと理解する必要があるのですが、それらは当然、十中八九英語で書かれているのです。Google 翻訳などを使いながら和訳を試みたりもしましたが、文中に専門的な用語が多かったり、修飾語が多かったりしたために、参考程度にしかならず、結局は自分で時間をかけながら翻訳することが多く、非常に時間を取られた覚えがあります。

そのため、みなさんにはぜひ、高校にいる間に英語の基礎を築いて、大学に入ってから苦労しないようになって頂ければと思います。

余談ですが、論文によっては会員登録なしでも全文読めたり、要旨だけでも読めたりするケースがあります。『Google Scholar』というサイト内で、ご自身の興味のある分野の英単語で検索いただくと、単語に関連した論文がヒットしますので、早いうちから論文に触れておきたい方はぜひ参考にしてみてください。

<最後に>

人生の進路とは、進めば進むほど選べる選択肢の枝が少なくなっていくものです。大学に入学した時点である程度の枝は消え、研究室に入ったらさらに消え、就職するとまた消えていきます。

高校生の間でしたら、比較的多くの枝の中から選ぶことができますが、今までの行いによっては進路選択以前の時点で、既に希望する枝を選択できない可能性もあります。

もちろん、既にどの選択肢を選ぶか決まっている方がいましたら、その枝を選んでいただいで構いません。

ただし、選択肢を残したいと思っても消えてしまう中で、行いを変えるだけで枝を残すことができるというのは、数少ないチャンスですので、将来何になろうか迷っている方はぜひ、多くの枝を残すべく、様々なことに積極的に取り組んでみてください。



卒業式直後、研究室の同期と
(田中さんは左から二番目)